

## 水土里レポート 投稿様式

投稿月日	令和6年12月19日
タイトル	福山市立大学地域連携セミナーへ参加して！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

令和6年11月30日（土）福山市立大学の小松安弘記念館において「地域連携セミナーFukuyama City University IDEA PITCH Vol.03」が開催され、水土里ネット福山の組合員である農業者との取り組みに関する研究発表があるため取材しました。

IDEA PITCH（アイデアピッチ）とは、短い時間で相手に提案を伝えることとされ、不特定多数の人に向けて行われることが多いことから共感しやすいことや内容がわかりやすいこと、簡潔であることが求められるものです。福山市立大学のアイデアピッチは、学生の研究活動、ビジネス・アイデア、企業とタイアップした新事業、社会貢献、学生イベントなどを紹介するもので、5組の学生が約10分ずつ発表し、その後パネルディスカッション、交流会が開催されました。

発表した学生は、福山市立大学図書館学生ボランティア「福books」、お手福の開発に携わった「otefuku」「『自分らしさ』が活かせる居場所づくりで地域貢献を」をテーマに活動する西川蔵土さん、保命酒BarHOREIを主宰する佐藤俊介さん、福山市立大学農業盛り上げサークル「GooHats（グーハッツ）」の5組です。



「ばらのまち福山」にピッタリ！ほのかなばらの香りの「お手福」を手に！

“福山市立大学図書館学生ボランティア「福books」”は、福山市立大学生の5人が多くの本を読んでもらう機会を作ることを目的に、テーマを決めて本を展示したことやSNSを使った本紹介や他の大学との読書会の開催、ビブリアバトルの参加などの活動を発表しました。本は、映像作品より読み手の想像力が千差万別になるところがおもしろいとの意見に共感しました。

“otefuku”は、都市経営学部3年生9人で2025年に福山市で開催される世界バラ会議福山大会とのコラボ商品開発を行うこととなり、複数の企業と協力し「ばらの香りの紙おてふき」を制作したことを発表しました。パッケージのデザイン、おてふきのばらの香りの強さ、ネーミングなど商品開発の難しさなど、やりたい事とコストの折り合いをつけることを学んだという感想は実体験に基づくことだと思いました。

“「自分らしさ」が活かせる居場所づくりで地域貢献を”では、教育学部4年生の西川蔵土さんが一般社団法人と協力して「全ての人自分らしく充実した人生を送ることができる地域に」をコンセプトに家でもない学校でもない、第3の居場所をつくる活動として大学生が中高生に勉強のサポートや様々な相談を聞くことをしていて、ただ答えを教えるのではなく、本人の気持ちや考えを言語化できるようにアシストするという話が印象に残りました。

“保命酒Bar HOREI”は、都市経営学部4年生の佐藤俊介さんが福山市鞆の浦の360年の歴史があり、伝統産業で観光資源でもある「保命酒」(ほうめいしゅ)を広めるため自ら休学してバーを主宰し、保命酒を使った「鞆ハイボール」を考案するなどの活動を発表しました。保命酒はみりんに生薬を漬け込んで作るリキュールで鞆の浦でのみ生産が許可されており、現在4社が製造しています。4社の保命酒の飲み比べや新たな商品開発など、アイデアと行動力に感心しました。

“福山市立大学農業盛り上げサークルGooHats(グーハッツ)”は、福山市立大学生19人のサークルで命名の元となった「偶発的な出会い」をコンセプトに農家と消費者の出会いの場、農家と大学生のかかわりを創設し作る人の顔が見える世界、幸せを共有したいとの思いで活動していることを発表しました。農家とのかかわりの中で「1人1推し農家」として、生産者と直接会ってファンとなり生産される野菜を買う取り組みや福山市内で生産が盛んなイチジクの農家との交流で廃棄されるイチジクがあることを知り、福山産の作物を使ったスムージーの開発をしました。農業に関わった活動を通して企業や他の大学生などさまざまな出会いがあり人とのつながりを大切に活動していきたいとの考えに共感しました。



要点をまとめて簡潔明瞭なピッチでした！



イチジクのスムージーです！

その後の交流会でグーハッツのメンバーの森本あさひさんにサークルの取り組みについてお伺いし、スムージーを販売するためにイチジクを冷凍して使うことなどをお聞きました。これからも農家の思いを伝える機会を作ることや新たな商品開発をしていくそうです。

今回の出会いをきっかけに水土里ネット福山として、農業に不可欠な基盤整備や施設の維持管理、用水について知ってもらうことや組合員である生産者との橋渡しがしたいと思い、この活動に関わっていきたくと思いました。

水土里ネット福山は21世紀土地改良区創造運動の一環として、様々な活動を「水土里レポート」にして継続的に投稿しております。